

流域情報

あらかわ



発行●NPO法人荒川流域ネットワーク編集委員会／編集人●鈴木勝行
住所●358-0046埼玉県入間市南峯400-4 FAX04-2936-4120
ホームページ●<http://www.arariver.org/>



新緑の都幾川／川島町越辺川との合流点上流(2010年4月11日) 写真撮影・荒川流域ネットワーク

CONTENTS

①
荒川流域生態系の生物多様性を取り戻しましょう

②
Network Information
6月6日に流域一斉水質調査を実施

8月6・7日に嵐山町でミスガキ交流会を開催
Network News
第2回標識アユの放流作業を4月11日に実施

③
Network News
県農村整備課が入間川水系13ヶ所の堰の調査に着手
5種類の遊び仕事のDVDを作製

自然再生通信
市野川で採用した新2WAY方式が完成

④
いきものの道・魚の道
2009年度の標識アユの溯上調査結果報告

⑥
森づくりの現場から Vol.9
バイオマスタウン構想の推進
秩父市農林環境課

⑧
流域活動団体のイベント・カレンダー
2010年6～8月

荒川流域生態系の生物多様性を取り戻しましょう

2010年生物多様性条約締約国会議COP10開催に向けて

NPO法人荒川流域ネットワーク代表 恵小百合

1992年にリオデジャネイロで開催された国連地球サミットで、気候変動枠組み条約と生物多様性条約という二つの世界の課題への挑戦が必要であることが合意されてから18年目の2010年は、生物多様性年です。

地球温暖化への対策を進めるとともに、多様な生物が生存できる環境を国家が取り戻すための生物多様性国家戦略が条約締約国で策定され、いよいよ地方自治体版が策定され始めています。

2010年10月には、名古屋で生物多様

性条約締約国会議COP10が開催されます。

私たちの身近な環境は、多様な生き物が棲みやすいかどうかを見極め、どうすれば生き物たちの力だけで、自ずと然るべき生態系のバランスが回復するのでしょうか。それは、生きものたちが棲みたい環境をよく確認し、私たち自身がその条件を整えること、それが地域や流域、国土、世界に広がって行きます。

特定非営利活動法人荒川流域ネットワークでは、2005年以来、みずかけ「サ」



論で、多様な人々の研究から得られた成果や、立場を異にする人々の主張をもとに、たくさんの「なるほど!」を勉強してきました。人間にとって、産業や地域にとって、そして、生きものにとって、また流域という国土の地形地理的な条件にとって、なるほど、あるべき姿はどのようなものかと、たくさんの納得を経て、水辺の環境を見直し、2008年からは、荒川流域ネットワークは、まさに「アユ」

の味方!?と思われるほど、アユの行き交う荒川を目指す多様な取り組みを展開しています。

スーパーフィッシュと呼ばれる川の往来の実力者のアユでさえ、飛び越えることのできない堰や河川横断構造物について点検し、その環境改善に向けて、

流域の河川管理者や土地改良区、漁業組合など関係機関との協力・連携が徐々に進み始めました。

入間川水系の国や埼玉県の河川管理区域で、県の農林整備課と連携した、アユの道の確保についての取り組みも今年から始まります。

私たちの取り組みが、次世代にとっても多様な環境を、そして、大きな時代の転換とともに、荒川の126の支流と2940km²の大きな流域全体が水と緑のネットワークである河川流域生態系の生物多様性を取り戻せるように、ご一緒に努力していきましょう。

NetWork Information 1

2010年度の荒川流域の一斉水質調査は6月6日(日)に実施。

昨年は、33団体3個人が流域の314ポイントの調査を行なった。今年も6月6日に一斉調査を実施する。今年は今まで、試薬の提供をしてくれていた荒川

上流河川事務所からの提供を受けられなくなったこともあり、全国版のCOD(化学的酸素消費量)と導電率計による電気伝導度を計測することになった。

導電率計は、荒川流域ネットワークで購入して参加団体に貸し出す予定。

試薬と導電率計の受け渡しは、5月29日、日高市生涯学習センター2Fで実施する。結果は地図にまとめるとともに、グーグルマップを使った地図情報としても公開する予定である。

NetWork Information 2

今年度のミズガキ交流会は、8月6・7日に嵐山の都幾川と国立女性教育会館で開催

今年もミズガキ交流会と第14回流域再生シンポジウムを嵐山町をフィールドに開催する。6日は近くを流れる都幾川で、漁協から借りた網を使って「地曳網漁」を実施し、標識アユの溯上調査を兼ねた魚類調査を行なう予定である。

夜は国立女性教育会館で、交流会を開催し、流域の団体の情報交換を行なう。

7日の午前中は、埼玉県環境科学国際センターの増富祐司氏による「荒川流域と地球温暖化」(仮題)というテーマで講演をして頂き、その後サロンを開催し、参加者による質疑応答と討論会を行なう。

詳細はこれから決定し、広報する予定だが、昆虫採集など子供対象の企画



昨年熊谷で行なったミズガキ交流会の様子

も計画している。

詳細は049-285-6625鈴木まで。

NetWork News 1

4月11日、入間川は田島屋堰上流、越辺川は中山堰上流でアユの標識放流を実施

2009年に実施した標識アユの放流調査で、入間川は狭山市にある上奥富堰、越辺川では川島町の中山堰までは溯上が確認できた。

その結果を踏まえ2010年4月11日に、入間川と越辺川のさらに上流部へ標識放流を行なった。入間川では、上奥富堰の約2km上流にある田島屋堰に150cm以上の落差が発生しているため、その上流の霞川との合流点付近、越辺川で

は中山堰の300m上流の越辺川と都幾川の合流点付近でアブラビレを切除し、両河川へ放流した。

当日は好天に恵まれ、越辺川39名、入間川37名の合計76名の人たちが、下流は江戸川区から上流は熊谷市まで流域各地から集合し、漁協関係も参加して作業を行なった。

標識放流には、今年も秋ヶ瀬取水堰の下流で県漁連が採捕した東京湾から溯上してきたアユを使用した。今年の稚アユは昨年比較して大型で、平均して全長は89.8mm、平均体重4.1gあった。(昨年は平均全長70mm、平均体重2.2g)放流数は、都幾川2869尾、越辺川2261尾、入間川3061尾 合計で8191尾だった。(昨年は9074尾)

6月のアユの解禁以降、各河川で投網で調査をするとともに、漁協や釣人



都幾川の会場で作業を行なう参加者と、作業終了後の集合写真



入間川の会場で作業を行なう参加者と、終了後の集合写真

からの情報提供を求める。また、調査のための都幾川・越辺川・高麗川での地曳網の実施も計画している。



NetWork News 2

農村整備課が入間川水系13ヶ所の堰に対する整備の可能性の検討について予算処置を実施

荒川流域再生プロジェクトは、水辺再生 100 プランの 2009 年度事業に、「入間川水系の 13 箇所の堰及び床固め工への魚道設置及び落差の解消」という内容で応募したが、結果的には採用されなかったことから、その経緯とこれからの計画について 4 月 21 日に県の農村整備課と意見交換を行なった。

県の説明は、「水辺再生 100 プラン事業は期間限定のため、この事業での対応は難しいという結論となった。しかし、知事も積極的であり、2010 年度、入間川、越辺川、都幾川を対象とした生物調査、13 箇所の落差を調査する

高低測量と改善策の検討、事業費試算など、整備の可能性の検討について予算措置を行なった。

魚類調査は、春から秋にかけて農林総合研究センター水産研究所が、採捕調査と聞き取り調査を実施。落差調査



今年度落差の調査が行われる菅間堰

は、渇水期の冬季に行う予定である。

短期間に全て改善できることではなく、例えば、市民の人の力を借りて、堰板を上げて溯上環境を改善したり、バケツで上流部へ搬送するなど、色々な方法を組み合わせながら、皆で汗をかきながら進めていければと思っています。行政だけではできないことも多く、それぞれ現場にあった方法で、きることから一歩ずつ進めて行きたい」というものであった。

当ネットワークとしては、県と一緒に堰の見学会を開催し、市民と関係機関をネットワーク化しながら、いままで通りできることを進めていくこと。これからも随時意見交換をしながら事業を進めていくことで合意した。

NetWork News 3

荒川流域で行なわれている現在の「遊び仕事」を映像化した5種類のDVDを作成

荒川流域では、川やその周辺の自然を活かした遊びを兼ねた仕事が行なわれていた。荒川流域ネットワークでは、時代の変遷の中で無くなるようにしているそれらの伝統や技を記録し、映像として残すことを目指し、5つの技術を収録したDVDを製作した。

浅草海苔の再生を語る「伝えたい！江戸前の海苔づくり」。ヨシを使った

簾づくりの技法を収録した「荒川の自然を編むヨシズ作り」。干潮域での伝統的漁法を使ってアユを採捕・放流する「建網漁法で稚アユを救え！」。以



前荒川右岸の支流で盛んに行なわれた伝統的漁法を収録した「後世に残したい川の地引網『アイ漁』」。春の日高市で野草摘みを記録した「高麗の郷春の自然を味わう」。以上の5点だが、会員の方には、無料で提供する予定。入手希望の方は、049-285-6625 鈴木まで。

「市野川水辺空間整備計画」事業

自然再生 通信

市野川[羽尾地区]で採用した新2WAY方式 1区間の整備が終了

●比企の川づくり協議会 代表 千葉茂樹

市野川は滑川町羽尾地区でまとまった河畔林の中を大きく蛇行を繰り返して流れている。

この蛇行河川の流下能力の向上（計画流量170 m³/秒）にあたっては、蛇行河川の将来にわたる保全を優先する観点からまず蛇行河川に洪水流量を負担させ、不足分のみを新たに整備する新川に負担させる新2WAY方式（※1）を採用することとし、平成21年度にて1蛇行分（B区間）の工事が終了した。しかし、このような整備方式は事例が少なく、2つの河川が川の営み（土砂供給など）の中でどのように維持されるか不確実性が伴うことから、2つの

河川の瀬や淵、底質、生物相などの変化をモニタリングし、その結果を踏まえて上流側の蛇行区間の整備方式を検討することで合意した。

当協議会では、河川整備基金の助成と専門家（自然共生研究センター）の指導を得て、市民によるモニタリング



市野川でのモニタリング調査

体制を構築し、整備直後の初期地形や底質、生物データを取得することができた。今後もモニタリングを継続し、川への理解を深めつつ、上流側の整備につなげていきたい。

（※1）新2WAY方式：通常、蛇行河川を直線化して流下能力の向上を図る場合、新川のみならず洪水流量を負担させ、蛇行河川には洪水流量を負担させない。市野川では蛇行河川に洪水流量を負担させることで、引き続き1級河川（流れる川）として管理されることとなった。



完成した分流堰（B区間）

2009年度『菅間堰アユ溯上作戦』の実施結果報告

■報告 鈴木勝行(荒川流域再生プロジェクト)

入間川でのアユの溯上を可能にした堰を管理している人々の理解と協力

アユの溯上を阻む農業用取水堰

入間川・越辺川には以前東京湾から大量のアユが溯上していたが、一時期工場排水や生活排水などの影響で水質が悪化し、溯上するアユの数は激減していた。その後、工場排水に対する規制や下水道の整備、生活排水対策についての世論が盛り上がり、多摩川にアユが戻ってきたことが話題になり、続いて新河岸川にアユが上っていることが確認されるようになった。

東京湾の浅場の環境が良くなった影響か、4年前から東京湾から荒川へ溯上する稚アユの溯上数が急増してきた。荒川の秋ヶ瀬取水堰の魚道での溯上数は、2005年は5万7千尾だったが、2006年以降は10倍以上になり、2008年は94万尾(水資源機構調べ)に達した。

しかし、入間・越辺川水系では荒川との合流点から上流の最初の堰である「菅間堰」が、大量の砂利の採取と永年の洗堀によって4m前後の落差が発生し、入間・越辺川水系に溯上した稚アユの多くはこの堰で溯上が阻まれているという指摘が、淡水魚の専門家や漁協の人たちからあった。

そこで当プロジェクトでは、菅間堰のアユ溯上環境の改善について、埼玉県、国土交通省荒川上流河川事務所、川越市等行政機関と埼玉県漁連、関連



入間川安比奈親水公園での投網による調査

漁協、水利組合等に協力を働きかけた。その上で、菅間堰の溯上環境が改善された場合、アユがどのように溯上・分散するのか、その実態を把握するため、標識アユを菅間堰上流に放流し追跡調査を行った。

2009年4月26日(日)、流域の団体・市民・県職員・漁協関係者が放流会場に集まり、全長7cm体重2gほどの稚アユのアブラビレを1尾ずつハサミで切除し、このアユを「標識アユ」として菅間堰の100mほど上流の入間川に4,800尾、越辺川に4,200尾放流した。アユが小型だったため、実際にはアブ



ラビレを切除できないまま放流したアユも一定程度含まれている。

アユ放流後、溯上環境を改善するため、放流点の約4km上流に位置する「寺山堰」の堰板の一部を5月1日から5月15日まで、水利組合の同意を得て3枚の板のうち上部2枚を外し、段差を20cmほどに緩和する作業を行い様子を見た。(詳細は9号に掲載)

越辺川の土地改良区にも同様の働きを行なったが、同意を得られなかったため、そのままの状態でも溯上状況を見ることとした。

入間川では13km上流まで確認

その後、入間川の寺山堰や越辺川の



2.5m以上の壁が続く溯上確認上限の上奥富堰



寺山堰での調査風景と10月に堰の下流で捕獲された雌の標識アユ

出丸堰、中山堰などで目視観察を行なったが、出丸堰の下でアユの確認をした他は確認できなかった。

入間川においては、武蔵漁協管内の投網によるアユ漁の解禁日に合わせて6月20日から寺山堰下流から東上線の鉄橋までの区間を調査したところ、7月3日に最初の標識アユを寺山堰の堰下で捕獲した。その後寺山堰の下では、9月22日に1尾、10月22日に2尾捕獲されている。これらのアユは、堰板を上げるのが遅かったため、右岸側にある土砂吐けを見つけられずに下流に留まったものと考えられる。

寺山堰から約0.5km上流にある「浅間堰」は許可水利権(国が認めた水利権)の堰で、5月15日まで土砂吐けが開放されたままになっていたため、落差が約40cmあったが、下流部でのアユの捕獲はできなかった。

JR川越線下で1尾の標識アユが捕獲されたが、一番情報量が多かったのは、入間川大橋と狭山大橋の間で、投網のグループと入間漁協狭山支部の人たちからの捕獲情報である。上奥富堰直下でも2尾捕獲されており、合計し

て18尾の標識アユが確認された。捕獲数からみて、多くの標識アユは上奥富堰まで溯上してきたと考えられる。

狭山支部では上奥富堰の上流でも地曳網を実施したが、標識アユは捕獲できなかった。ただ、笹井堰上流でアブラビレが欠損しているアユを釣ったという釣人からの情報があったが、途中の溯上情報がないため参考情報にさせて頂き、本流以外の可能性も含めて今後調査を予定している。結果的には、2.5m以上の垂直の落差がある13km上流の上奥富堰が溯上最上流部ということになった。

越辺川での確認は中山堰まで

越辺川においては、約4km上流にある出丸堰で5月2日に、2尾の標識アユが釣れたという情報が寄せられた。

6月20日の最初の投網調査では、出丸堰では捕獲出来ず、約7.5km上流にある中山堰で、2尾の標識アユが捕

獲された。捕獲した場所は、土砂吐けの直下。両堰とも川島土地改良区が所有している堰だが、もし堰板を上げる等の改善ができていたら、溯上できたと可能性があったと思われる。

その後、10月16日まで、越辺川の島田堰や樋ノ口堰などで8回、都幾川の長楽堰や矢来堰などで4回、高麗川の生栗田堰などで2回投網による調査を行なうが、7月26日に樋ノ口堰の堰下でアブラビレのあるアユが3尾捕獲されただけで、標識アユは全く捕獲できなかった。

最終的な確認は、7.5km上流の中山堰という結果となった。

小畔川でも御伊勢原の床固め工や笠幡のラバー堰の下などで、3回の調査を行なったが、標識アユは捕獲できなかった。ただ他の河川に比較して魚の生息量が多いことが分かった。

10・11月には入間川の昭代橋や初雁橋の橋下で100尾前後の群れを作っ

ている落ちアユの姿を見ることができた。

2009年度の調査を踏まえて、菅間堰と入間川の上奥富堰や越辺川の中山堰の溯上環境の改善に向けて、これから関係機関と協議をする予定である。

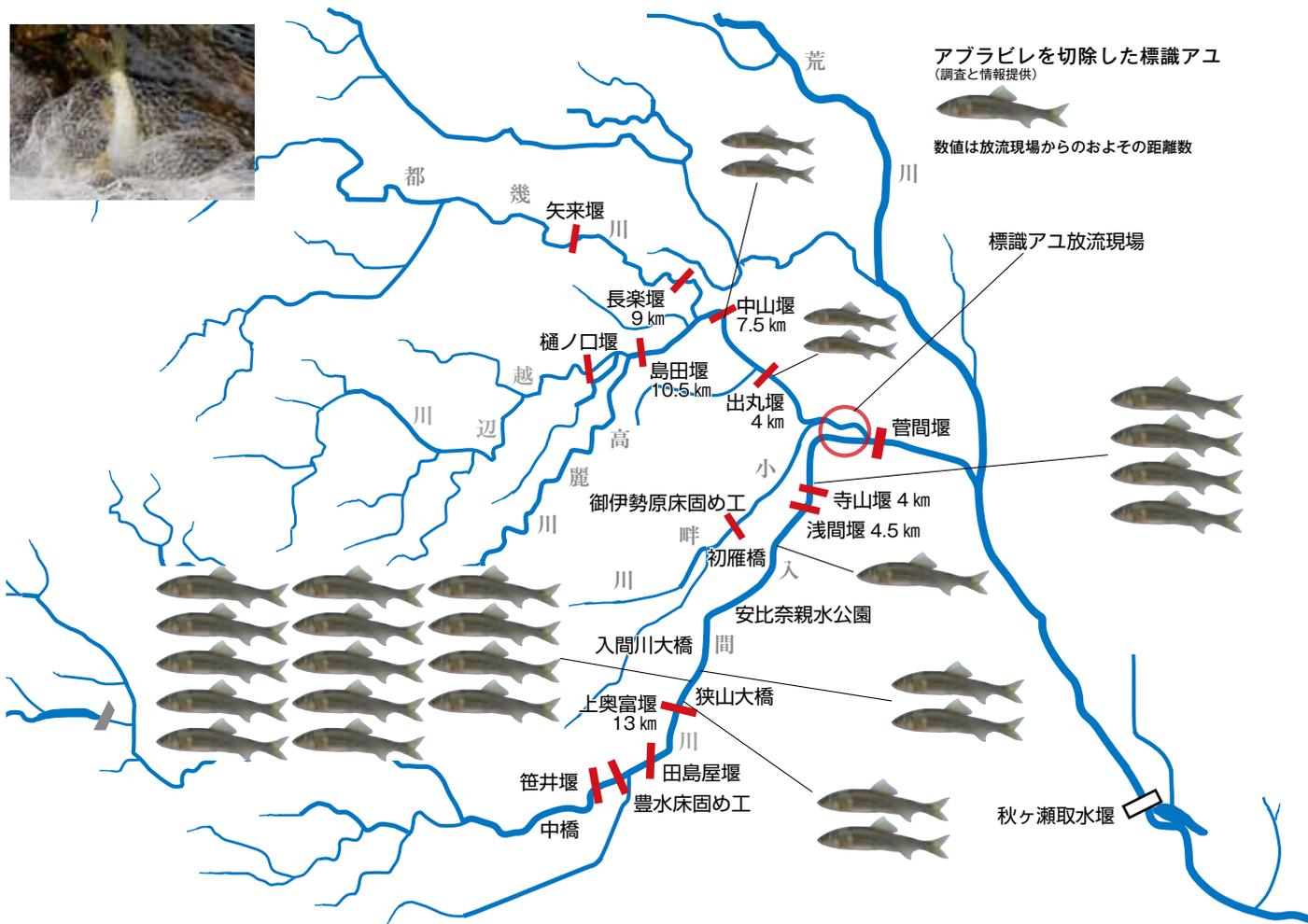


越辺川の中山堰の土砂吐けで3尾のアユを捕獲し、唯一の投網による捕獲情報となった。



当堰で捕獲された2尾の標識アユ

標識アユの溯上調査マップ (2009年6月20日~10月24日)



「バイオマスタウン構想」で、循環型社会を創る

山仕事の機械化と効率化

秩父地域の民有林は、スギやヒノキの人工林が約半分を占め、35年生から50年生ぐらいの間伐が必要な森林、50年生の伐って使える木が多いのですが、間伐は遅れています。人工林は荒廃の危機にあるとも言われています。

人工林は、植えからも人が手をかけなければ、きちんと育ちません。下刈り、除伐、間伐を行うことで、森林機能が高まるので、手入れが大切です。

秩父地域の山は、非常に急峻です。斜面が急で作業がしづらい上に道が少ない。人工林は、道がなければ、植えた木も出すことが難しい。県全体だと、1ha当たり7.9mの林道が入っていますが、秩父市の場合は5.4mしか

機械が使い、効率化と低コスト化、材の有効利用が可能になっていくと考えています。

さらに進んだ機械に、ロングリーチ系の機械があります。平成19年度に、機械を借りて実験をやりました。ロングリーチ・ハーベスタは腕を伸ばし、木を伐り丸太を生産する機械です。ロングリーチ・グラブは、腕が20m伸びて木をつまみ出す機械です。作業道ができれば、こういう機械を入れて、効率よく倒した木をつまみ出し、丸太にすることができます。丸太で売れないところはバイオマスで使えばいいわけです。丸太を取るときの一連の作業で、バイオマスを取獲することができます。できれば効率的で、コスト的にも安くすることができます。いら



元気村施設に電気と熱を送る自家発電設備として、年間約450tのバイオマスを使います。元気村の電力消費量に合わせた115kWの小さい設備で、小さいために、採算性は低いです。初めての事業としては適当な大きさだったと思っています。

平成19年1月から運転を始め、昨年の5月1日に、コスト面で一次凍結しましたが、9月から再開しました。昨年12月末現在、発電時間は6,399時間。日本で木をガス化して電気と熱を供給する施設としては、最も長い運転時間だと思います。安定的、継続的に運転することが、大切なテーマです。

平成19年度は、地域実証試験事業に取組みました。



森づくりの現場から Vol.9 秩父市

源流の森林を生かすための技術、マーケットの創造、植生のデザインについて

各種高性能林業機械



大野輝尚 <秩父市環境農林部管理幹>

バイオマスを山の中に戻したりしているの、材を材として使い、残り物も有効利用することが必要だと感じます。

森林バイオマス発電に挑戦

平成19年度にバイオマス発電所を造り、森林バイオマスでの発電にチャレンジを始めました。コンセプトは、「森林の再生・保全」をねらって、持続的な森林経営地域システムを再興すること。森林の再生・保全等を目的として、間伐材・森林残材運び出し、木材利用し、残りをエネルギーにする。川上側は、安定・低コストにバイオマスを搬出・輸送・加工する部分。川中、これはエネルギー変換する部分。川下側、生産したエネルギーや副産物を有効利用する部分。これらすべて考えながら進めています。

間伐し、丸太を作り、要らない部分はバイオマスとして利用する中で、チップ化実験などをやりながら、川上から川下までの流れをつなぐことができました。

平成19年度の成果をまとめると、市有林、県有林、私有林から701㎡のバイオマスを調達しました。また間伐等では、634㎡の丸太をつくり販売をしました。

バイオマスは、チップ工場でチップにし、発電所の燃料にします。バイオマス発電が動き、電気と熱を供給する中で、化石燃料代替効果として、CO₂排出量234tを化石燃料から置きかえたと試算しました。元気村施設では、供給されたバイオマスエネルギーで、CO₂換算90tが排出削減され、余った電気は電力会社に売りました。

林内に残材を残さないで、林内整

い状況です。

今の林業は、高性能林業機械が主役です。ケーブルを張って約300mの集材ができるタワーヤーダ、約100mの集材ができるスイングヤーダが、主流になっている機械です。林内に道を造れば、非常に効率が高まります。

今の状態では、秩父にはスイングヤーダで集材できるエリアはほとんどありません。大掛かりな架線を引かないと木が出せないエリアがほとんどです。道が付くことで、高性能な林業機

2007年度 秩父市の木質バイオマス・エネルギー事業



元気村にあるバイオマス発電所

備が約 16.8ha できました。市有林の森林整備による吸収源対策として 54t の CO₂、そして丸太生産で材の中に固定した CO₂ が 386t あったと試算しました。

バイオマス利用に伴い、もともとは森林整備をして丸太を出すラインだけだったものに、バイオマスの調達、運搬、加工という新しい流れをつくり、19年度は、延べで約 300 人日の新しい仕事が生まれました。

発電所は職員が 2 人。交代勤務での運転は、各 0.5 人/日ほどの仕事量です。その他、環境学習や循環利用の検討、視察対応などもしています。年間 262 組、2,800 人ほどの人が視察に来ました。今年度は、埼玉県「ふるさと雇用再生基金」を使い、間伐材の搬出・林内整備で 4 人、チップ加工に 1 人、発電所運転は 3 人、合計 8 人の新規雇用を得て、バイオマスの一連の流れを動かしています。

木材を使った多様な取り組み

電気と熱を元気村に供給するだけでなく、視察・見学、環境学習、交通など、トータルにいろんな事業を行っています。

住民参加と森林保全、自然エネルギーの普及啓発のために、例えば山を

知っている人に「森の先生」になってもらう、薪拾いボランティアとして山に入ってもらい、あるいは小・中学生へ森や水の環境学習をするなど、さまざまな仕掛け、事業の種をまきながら進めてきています。

都市と山村の交流として、森林の手入れを流域のボランティアの方にも参加してもらう「森と水の応援団」事業もスタートさせました。

「森と水の応援団」は、どんぐり拾い、植樹、ボランティアの間伐、薪拾いイベントなど行っています。薪拾いは、林内の切捨て間伐材などをボランティアに出してもらい、チップにして燃料にするようなイベントです。好評で、ある区では独自に参加者を集めて、秩父に応援に来てもらう活動にまで展開してきました。

発電所を中心に環境学習事業も展開しています。見学者などのアンケートからは、森林保全に取組みたい、温暖化防止に取組みたいなど、行動の動機づけになっていることが分かりました。

発電所から出る炭は、畑の土壌改良剤、水質浄化材などに使われています。県の「里川の再生」事業で、生活排水で汚れた河川の浄化にも利用されています。小中学校、地域住民の方とともに川の浄化に使った炭は、畑で野菜を作るなど循環利用を進めて頂いています。また、元気村では、スギチップや炭を使って、トイレやお風呂、厨房の排水を浄化する実験を行い、一昨年まで「秩父の環境を考える会」などの協力で、家庭でも実験をしました。

バイオマストイレも導入しています。



オガコ(左)とスギチップ(右)を使ったバイオマストイレ

糞をオガコで分解させるもの、スギチップでトイレ排水を浄化するものもやっています。

森林資源と循環型社会づくり

昨年度「バイオマスタウン構想」をつくりました。森、水、農地を守るために地域資源を使って循環型社会をつくる計画です。林業、農業、それから学校とも連携して進めたいと考えています。

山の関係の課題を整理すると、林業と環境の維持保全は、車の両輪と言えます。森林整備には、森林環境税などの公的支援も欲しい。多くの手が入ること、丸太が利用されることで、環境性も高まる。

新エネルギーについては、太陽光発電の買取価格が今 2 倍になりましたが、木質バイオマスエネルギーにも高値買取制度が必要です。バイオマス発電には、まだまだ維持管理費に非常にコストが掛かります。

今、木質バイオマスは発電を中心にやっていますが、温風、温水、電気、CO₂、炭の利用など、出口をとにかく増やし、複合化していくことが必要だと考え、取り組んでいます。

チップボイラーをイチゴハウスで実験もしました。ストーブもいいです。

メインはやはり建材として使う木材利用です。出口が増えていく中で、森林は良くなっていく、これが一番大きいと思っています。

秩父の特性である森林。秩父のブナ原生林は、首都圏に一番近いブナと言われています。森林を多彩に活用するため、流域からのご支援が必要です。

森林が継続するためには、人工林が人工林として繰り返される必要があります。植えてから 50 年経たないと使えません。そのためには 50 年後の植生のデザインを描く必要があります。

木材を出せない所にまでスギなど植える必要はないし、天然更新がよい場所もあると思います。その辺はこれから市民の方とも議論が必要だと思います。

▶ 流域活動団体 ◀ EVENT INFORMATION

● ちょっと出かけてみませんか



イベントについてのお問い合わせは
荒川流域ネットワーク事務所
● TEL&FAX 04-2936-4120
● E-mail: info@ara-river-net.jp
* 連絡はできるだけFAXかmailをお願いします。

E…イベント **N**…自然観察会 **K**…保全活動 **C**…清掃活動 **S**…シンポジウム **L**…学習会

E むさしの里山研究会のイベントガイド 寄居町

① 泥んこ田植え体験だ

内 容 ● 田植えと生き物探し
期 日 ● 2010年6月19日(土) / 20日(日)
10:30~12:30

② 掘りたてのジャガイモはうまいぞ

内 容 ● ジャガイモを掘り、掘りたてのジャガイモを食べる
期 日 ● 2010年6月26日(土) 10:30~12:00

③ 田んぼの草取りはつらいぜ

内 容 ● 雑草取りと生き物探し
期 日 ● 2010年7月10日(土) / 8月21日(土)
9:30~10:30

場 所 ● むさしの里山研究会の田んぼ生き物公園かコミュニティファーム / 雨天中止
参加費 ● 200円 (定員があるのでご確認下さい)
問い合わせ・申し込み: NPO法人むさしの里山研究会
E-mail: toambo2@d1.dion.ne.jp

N (仮称)川越市森林公園計画地でのキノコの観察会 川越市

内 容 ● キノコの専門家と林内を巡る。
日 時 ● 2010年7月4日(日) 9:30~
集合場所 ● 川越南文化会館 (ジョイフル)
参加費 ● 100円
主 催 ● かわごえ環境ネット
問合せ ● 049-234-9366 (賀登環)

N (仮称)川越市森林公園計画地での虫の観察会 川越市

日 時 ● 2010年8月1日(日) 9:30~
集合場所 ● 川越南文化会館 (ジョイフル)
参加費 ● 100円
主 催 ● かわごえ環境ネット
問合せ ● 049-234-9366 (賀登環)
※講師の都合で7月31日(土)になる場合がありますので
事前に問い合わせ下さい

編集後記

今年の春は異常な気温変動が続いている。その変動の影響を受けたのか秋ヶ瀬取水堰の魚道を溯上する稚アユの数も例年と大分異なった様相を呈している。4日間で1尾しか上がらなかった直後に、突然過去最高の1日で17万尾の稚アユの溯上があった。今年は最終的に何尾溯上するのか気になるところだ。今年も幸運にも恵まれ無事アユの標識放流作業が終わった。稚アユも昨年に比べ大型に育っていたが、上流へ向かい元気に泳いでいった標識アユたちはどこまで溯上していったのだろうか。20cm前後に育った標識アユを探す作業に対して多くの人々の協力をお願いしたいと思う。(鈴木)

N 秩父の環境を考える会の夏のイベント 秩父市

① 川の再生工事現場の植物調査

① 日時 ● 2010年6月26日(土) 10:00~15:00
集合場所 ● 金室地区下水処理場下の荒川河川敷
② 日時 ● 2010年7月10日(土) 10:00~15:00
集合場所 ● 横瀬ウォーターパーク白山
持ち物 ● 昼食、飲み物、筆記用具
問合せ ● 0494-23-4184 (金田安生)

② ホタル鑑賞会

日 時 ● 2010年7月3日(土) 18:30~20:30
集合場所 ● 札所23番(音楽寺)駐車場
問合せ ● 0494-24-4116 (萩原良朗)

③ 子供昆虫探検隊

日 時 ● 2010年7月25日(日) 9:30~12:00
集合場所 ● 秩父ミュージアムパーク駒沢駐車場
持ち物 ● 捕虫網と虫かご
問合せ ● 0494-24-4116 (萩原良朗)

参加費 ● 全て無料

K 竹林の管理・タケノコ取り 上尾市

内 容 ● 三つ又沼ビオトープで、オオヨシキリのさえずりを聞きながら、竹林の管理とタケノコを取り。
日 時 ● 2010年6月13日(日) 9:00~12:00
持ち物 ● 飲み物、軍手、帽子、タオル、袋
集合場所 ● 三つ又沼ビオトープ駐車場
参加費 ● 100円(保険代)
主 催 ● NPO法人荒川の自然を守る会
問合せ ● 048-726-1078 (菅間宏子)

N 市民参加の堤防植物調査 上尾市

内 容 ● 夏、荒川の堤防に生える帰化植物と水田周辺の植物を調査します。オグルマの花が見れるかも
日 時 ● 2010年8月22日(土) 8:00~11:00
集合場所 ● 三つ又沼ビオトープ駐車場
参加費 ● 100円(保険代)
主 催 ● NPO法人荒川の自然を守る会
問合せ ● 048-726-1078 (菅間宏子)

K ゼフィルスの観察会 鶴ヶ島市

内 容 ● 高倉の雑木林でゼフィルスなどの昆虫を観察。
日 時 ● 2010年6月5日(土) 9:00~12:00
集合場所 ● 高倉池尻池 (清風高校南側)
参加費 ● 200円
服 装 ● 飲み物、帽子、捕虫網、虫かご
主 催 ● 鶴ヶ島の自然を守る会
問合せ ● 090-7804-5722 (鈴木勝行)